



加茂小だより



日頃の様子
の『加茂小ニュー
ス』で紹介中
です。

7月号

「努力ステージ」後半の充実に向けて

「努力ステージ」がスタートし、約1ヶ月半が経過しました。今まで多くの子が「個人の意志+仲間の力」でめあてに向かって頑張りがつづけてきました。今後は、1学期中に全員がやり遂げた達成感を味わうことができるように、さらなる働きかけをしていきます。その達成感が、夏休み中の頑張りに生かされると考えています。とはいっても、長丁場の夏休みを子ども一人だけの力で頑張りが抜くのは至難の業です。そこで、学校で事前指導をします。夏休み中は、保護者の皆様のごまめな見届けや励ましが子どもたちの意欲の持続につながりますので、御理解・御協力をお願いします。



努力の跡がわかるカード

長続きする幸せ その2

前回の学校だよりでは、幸せには『長続きしない幸せ』と『長続きする幸せ』があることや『やってみよう因子』『ありがとう因子』『なんとかなる因子』『ありのままに因子』が高くなるように意識することが幸せへの近道になることなどをお伝えしました。今回は、4つの因子のどれを伸ばし子どもにどのように接すれば幸福度をより高めることができるのかといったことについてまとめました。

『やってみよう因子』…夢や目標を達成する、自己実現のために成長しようとする姿勢

『ありがとう因子』…家族や友人など、愛情やつながりを感じられる関係をもつことで感じられる幸せ

『なんとかなる因子』…楽観的で自己受容（長所も短所も含めて自分を受け入れられること）ができること

『ありのままに因子』…他人と自分を比較することなく、「私は私」と思えること

幸福度を高めるためには、4つの因子の中で自分の高いところを伸ばすことがお勧め。



その結果、他の因子も伸びる。

人間はずっと群れで生きてきて共感力が強いので、幸福も不幸も伝播する。だから自己犠牲の精神はあまりお勧めできない。自分の幸せを自指しながら、家族や友人などの身近な人を幸せにすることを考えてほしい。そのうえで、家族を幸せにするには対話が大事。このときに重要なのが傾聴の姿勢。こうしたことができるためには、子どもをありのままに認めてあげる必要がある。子どもには生まれもった個性があり、生きたい人生がある。だから、親の願いや期待は、「あんな職業についてほしい」といった具体的なものより、「優しく健康で充実した人生を送ってほしい」といったような抽象的なレベルにとどめておくこと。

私自身の子育てを振り返ってみますと、地道な努力が嫌いで勉強も得意ではない次女に対して「自分自身で目標を決め実現に向けて頑張る人に育ってほしい」と、親として願い支援することに努めてきました。その結果、自分の意志で決めた「保育士になる」という目標を達成し、現在、生き生きと働いています。また、努力が苦手な子や問題行動を起こしてしまう子などの気持ちがかなり理解できることが仕事に生かされています。短所を無理やり克服させようとせず「技能教科が得意」「人が好き」といった長所を認め、のびのびと育ててきた、親としての姿勢が少しは生かされたのかなと思っています。